

課題名 ホタテガイの近年における浮遊幼生出現・稚貝付着状況の推移

普及指導チーム 伊藤 貴範

取組経過

当場では、ホタテガイ浮遊幼生調査を行い、調査結果を「ホタテガイ採苗通報」としてとりまとめ、漁業者の方々等に情報提供を行っている。

浮遊幼生の出現数や、採苗器への稚貝の付着状況は年毎に変動があることから、過去5年間（平成29年度～令和3年度）の推移をとりまとめた。

1 浮遊幼生調査

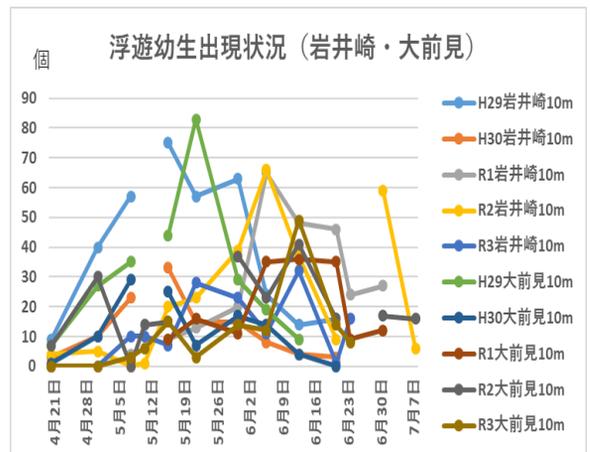
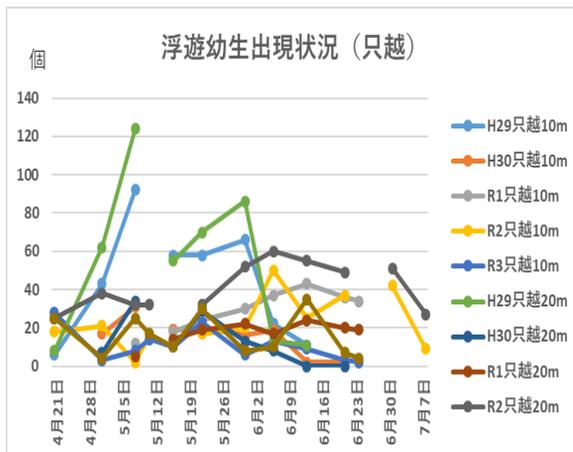
(1) 調査点

- ・ 広田湾（只越）：水深10m，水深20m
- ・ 気仙沼湾（岩井崎，大前見）：水深10m

(2) 調査方法

- ・ 北原式定量プランクトンネット（100μ）により採取

(3) 過去5年間の出現推移



- ・ 4月下旬から5月上旬にかけて出現のピークとなり、7月上旬まで出現が観察されている。
- ・ 出現のピーク時期は年を追うごとに遅くなり、出現数は減少傾向が見られる。

2 試験採苗器による稚貝付着状況調査

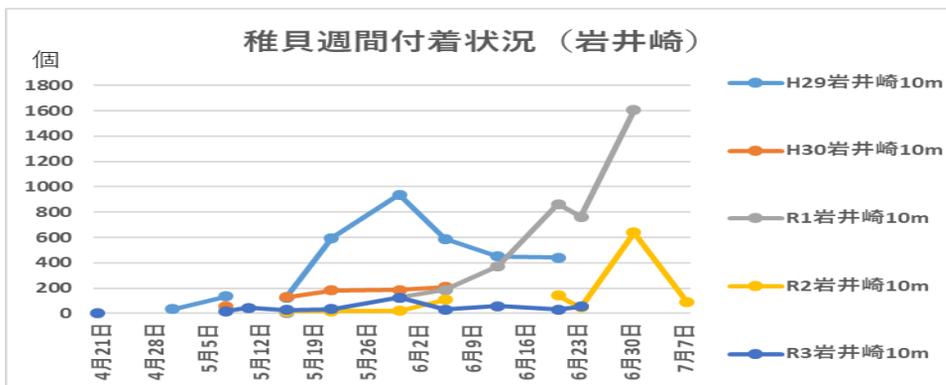
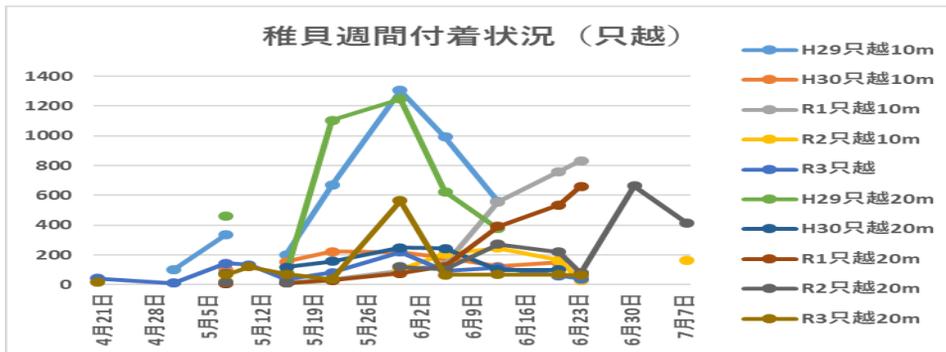
(1) 調査点

- ・ 広田湾（只越）：水深10m，水深20m
- ・ 気仙沼湾（岩井崎）：水深10m

(2) 調査方法

- ・ ネットロンネット（1尋×2）を丸めた後，タマネギ袋に收容したものを月曜日に定点に設置し，翌週月曜日に回収したあと計数。
- ※時化の影響等により，調査日が変更になる場合があり，週間に垂下日数が異なる場合がある。

(3) 過去5年間の付着状況推移



- ・ 稚貝の付着は4月下旬から確認され，5月中下旬にかけて増加し，以降減少傾向を示す。
- ・ 令和元年以降，6月上旬から付着数が増加し，6月下旬にピークとなる傾向が見られている。



←丸めたネットロンネット

←タマネギ袋



↑写真右の構成物を用いた採苗器

試験採苗器

